

平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう～

令和4年版



7月12日は「宇都宮市平和の日」
7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。

この期間中、宇都宮市立図書館では、平和関連の本などを集めたコーナーを開設しています。あわせて、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

戦時中の栃木県や宇都宮市についての本

	タイトル	うつのみやの空襲			宇都宮市の「戦災記録保存事業」の報告書。近代の宇都宮の歴史から、戦後の平和への道のりまでを、多数の写真や資料、市民への聞き取り調査などでわかりやすく記録している。
	著者	宇都宮市教育委員会/編			
	出版社	宇都宮市教育委員会			
	分類	K210.7/ウ	出版年	2001年 2011年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	宇都宮空襲の記憶			昭和20年7月12日に起きた宇都宮大空襲当日の記憶を中心に、市民が自身の戦争体験をつづった記録集。当時の宇都宮市で起きた、九つの貴重な体験を収録している。
	著者	宇都宮市平和委員会/編			
	出版社	宇都宮市平和委員会/編			
	分類	K390/ウ	出版年	2005年	
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	二荒山は炎の中に			宇都宮空襲・戦災の実態を、多くの図版や写真、絵を使い、わかりやすく解説。市民による宇都宮空襲の切実な体験談を交え、身近なところから平和を考える1冊。
	著者	宇都宮平和祈念館建設準備会/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K390/ウ	出版年	1992年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	実録! 宇都宮大空襲			当時市役所に勤務していた郷土史家の徳田浩淳氏が、宇都宮大空襲のあった7月12日から19日までの一週間を、自身と家族の体験を中心に克明に記録している。
	著者	徳田浩淳/著			
	出版社	宇都宮平和祈念館をつくる会			
	分類	K390/ト	出版年	1999年	
	所蔵館	中央・南			

	タイトル	語りつぐ戦争 とちぎ戦後70年			下野新聞が戦後70年を節目に企画した連載記事をまとめたもの。栃木県内外の戦争体験者による証言や、惨禍を語り継ぐ各地の取り組みを多数収録。記憶や歴史が遠ざかりつつあるなか「いま語らねば、伝えねば」という切迫した思いが伝わってくる。
	著者	下野新聞社編集局/著			
	出版社	下野新聞社			
	分類	K200.7 シ	出版年	2016年	
	所蔵館	全館			

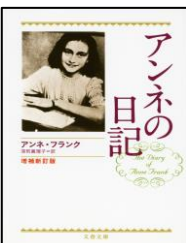
	タイトル	戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日			昭和20年8月15日終戦の日の栃木県民の体験談。空襲・食糧難・学童疎開・勤労動員そして、肉親・友人の出征・戦死など、戦争が遠く離れた時代や地域のものではないことと、平和の大切さを知る。
	著者	編集工房随想舎/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K200.7/ズ	出版年	1989年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

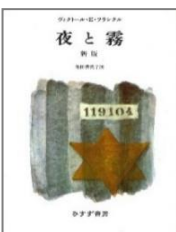
No Image	タイトル	一しずくの水 ー栃木県被爆者体験記ー			県総合運動公園内に「栃木県原爆死没者慰霊の碑」が建立されたのを機に、核兵器廃絶と世界平和を訴えるため発行された、栃木県関係者だけの被爆体験記。栃木県民も原爆とは無縁ではないことを改めて考えさせられる。
	著者	栃木県原爆被害者協議会/編			
	出版社	栃木県原爆被害者協議会			
	分類	K950 ト	出版年	1992年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争の記憶を語り継ぐ(DVD)			宇都宮空襲、シベリア抑留、インパール作戦などを体験した栃木県内在住者たちの証言を集めた2枚組DVD。当時の心理状態や悲惨な生活について細部まで語られており、ひとつひとつの言葉の重みに胸が締め付けられる。
	著者	栃木県/編			
	出版社	栃木県			
	分類	270 セ	出版年	2016年	
	所蔵館	中央・南・上河内・河内			

次代へ読み継がれていく本

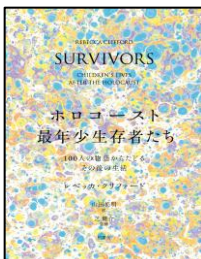
	タイトル	黒い雨			原爆の激しさ、恐ろしさを声高に表現する作品が多い中、この作品は被爆者の日常をただ淡々と描いている。市井の人の上に冷たく降り注ぐ黒い雨。静かな光景が原爆の残酷さを際立たせ、平和の大切さを強く訴えている。(野間文芸賞受賞) ※埼玉福祉会発行の大活字本あり
	著者	井伏鱒二/著			
	出版社	新潮社（文庫）			
	分類	F/イブセ.マ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	アンネの日記			第二次世界大戦下、ユダヤ人ゆえに隠れ家での生活をしいられるアンネ。13歳から約2年間にわたりつづられた日記では、辛くても、いつかまた幸福を見いだせると信じ、未来に希望を抱くことで自分を保つアンネの健気さや強さにふれられる。 (ユネスコ記憶遺産)
	著者	アンネ・フランク/著 深町眞理子/訳			
	出版社	文藝春秋			
	分類	945/フ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

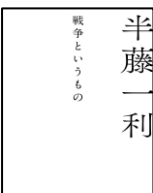
	タイトル	夜と霧			第二次世界大戦中、心理学者・精神学者だった著者は、ナチスにより強制収容所に収容された。強制労働、懲罰、「選抜」。過酷な現実にある被収容者の心の反応を冷静に分析。「わたしたちは、おそらくこれまでの時代の人間も知らなかった「人間」を知った。」と記している。
	著者	ヴィクトール・E・フランク/著 池田香代子/訳			
	出版社	みすず書房			
	分類	946/フ	出版年	2002年	
	所蔵館	全館			

戦争を知り、平和を願う本



	タイトル	ホロコースト最年少生存者たち 100人の物語からたどるその後の生活			トラウマ。証言。生き残り。沈黙。この四つは 長年ホロコースト研究を通じて学者を導い てきた中心的概念である。周囲から「概念」 に沿った対応を期待された「幼年時生存 者」の多くは、「自分は何者なのか」という 疑問に絶えず苦しんだ。そんな子供たちが 経験した「戦後」の生活とは。
	著者	レベッカ・クリフォード/著			
	出版社	柏書房			
	分類	209.7 ク	出版年	2021年	
	所蔵館	中央・東			

	タイトル	それでも、日本人は「戦争」を選んだ (朝日出版社2009年版の再刊)			なぜ日本は戦争に踏み切ったのか。歴史研究部を中心とした中高校生への5日間の講義を基に書籍化。多岐にわたる参考文献から当時を分析しており、歴史の知識だけでなく、歴史からなにを学ぶかを考えさせられる。
	著者	加藤 陽子/著			
	出版社	新潮社			
	分類	210.6 カ	出版年	2016年	
	所蔵館	南			

	タイトル	戦争というもの			昭和史研究の第一人者・半藤一利の遺稿。戦争未体験の世代に向けて、当時流行した軍人たちの名言やスローガンを解説。その言葉の意味や背景から、戦争の実態を浮き彫りにする。平和の尊さを後世へ語り継ぎたいという著者の願いが込められている。
	著者	半藤 一利/著			
	出版社	PHP研究所			
	分類	210.7 ハ	出版年	2021年	
	所蔵館	中央・東・上河内			

	タイトル	池上彰の君と考える戦争のない未来			戦争をなくすには、その悲惨さだけでなく、戦争がどういうものかを知る必要がある。「戦争ってなに？」というところから、ジャーナリストの池上彰氏が分かりやすく解説。戦争の背景や性格を知ることによって、戦争をなくす、あるいは戦争を減らすヒントを得ることができる。
	著者	池上彰/著			
	出版社	理論社			
	分類	319.8 イ	出版年	2021年	
	所蔵館	中央・東・上河内			

	タイトル	ナガサキ 核戦争後の人生			著者は、ワシントンで講演をする被爆体験者に翻訳者として同行したことにより、アメリカで教えられた原爆とは違う事実があったことを初めて知る。被爆した一人一人の体験を丁寧に描きながら、あの時のナガサキに迫るノンフィクション。
	著者	スーザン・サザード/著			
	出版社	みすず書房			
	分類	369.3 サ	出版年	2019年	
	所蔵館	南			

	タイトル	少女たちの戦争			非日常が当然だった戦時下の中にも、何気ない生活があった。瀬戸内寂聴や橋田壽賀子など、あの頃、青春の真っ只中にいた少女たちが見た戦争と日常をリアルに描く。戦争を体験した少女たちの怒りや悲しみがひしひしと伝わってくるエッセイ集。
	著者	中央公論新社/編			
	出版社	中央公論新社			
	分類	914.6 チユウ	出版年	2021年	
	所蔵館	中央・東・上河内・河内			

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">田辺聖子十八歳の日の記録</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">田辺 聖子/著</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">文藝春秋</td></tr><tr><td>分類</td><td>915.6 タ</td><td>出版年</td><td>2021年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td colspan="3">中央・東・南</td></tr></table>	タイトル	田辺聖子十八歳の日の記録			著者	田辺 聖子/著			出版社	文藝春秋			分類	915.6 タ	出版年	2021年	所蔵館	中央・東・南			小説家田辺聖子。彼女が数えの18歳になったばかりの昭和20年4月から22年3月までの日々の記録が没後、自宅から見つかった。作家になることを夢見る18歳の少女の日記には、当時の日常が精彩ある文章で、詳細に綴られている。巻末に著者の年譜付き。
タイトル	田辺聖子十八歳の日の記録																					
著者	田辺 聖子/著																					
出版社	文藝春秋																					
分類	915.6 タ	出版年	2021年																			
所蔵館	中央・東・南																					

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">戦中派不戦日記 山田風太郎ベストコレクション</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">山田 風太郎/著</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">KADOKAWA</td></tr><tr><td>分類</td><td>915.6 ヤ</td><td>出版年</td><td>1985年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td>中央・東・南</td><td></td><td>2002年</td></tr></table>	タイトル	戦中派不戦日記 山田風太郎ベストコレクション			著者	山田 風太郎/著			出版社	KADOKAWA			分類	915.6 ヤ	出版年	1985年	所蔵館	中央・東・南		2002年	昭和20年、医学生であった著者の日記。稀少な一般民衆側の記録から、プロパガンダが盛んな戦時中から終戦直後の1年間の生活を伺うことができる。
タイトル	戦中派不戦日記 山田風太郎ベストコレクション																					
著者	山田 風太郎/著																					
出版社	KADOKAWA																					
分類	915.6 ヤ	出版年	1985年																			
所蔵館	中央・東・南		2002年																			

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">風太郎不戦日記(全3巻)</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">山田 風太郎/著</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">講談社</td></tr><tr><td>分類</td><td>C ヤマダ</td><td>出版年</td><td>2020年~2021年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td colspan="3">中央・東</td></tr></table>	タイトル	風太郎不戦日記(全3巻)			著者	山田 風太郎/著			出版社	講談社			分類	C ヤマダ	出版年	2020年~2021年	所蔵館	中央・東			山田風太郎著「戦中派不戦日記」から数日のエピソードを漫画化したもの。マンガは、佐藤多香子著『しゃべれどもしゃべれども』のコミカライズ化を手掛けた勝田文が担当している。
タイトル	風太郎不戦日記(全3巻)																					
著者	山田 風太郎/著																					
出版社	講談社																					
分類	C ヤマダ	出版年	2020年~2021年																			
所蔵館	中央・東																					

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">伝説となった日本兵捕虜 ソ連四代劇場を建てた男たち (「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」の改題、加筆修正版)</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">鳶 信彦/著</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">KADOKAWA</td></tr><tr><td>分類</td><td>916 シ</td><td>出版年</td><td>2019年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td colspan="3">南</td></tr></table>	タイトル	伝説となった日本兵捕虜 ソ連四代劇場を建てた男たち (「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」の改題、加筆修正版)			著者	鳶 信彦/著			出版社	KADOKAWA			分類	916 シ	出版年	2019年	所蔵館	南			タシケント市にあるナボイ劇場は、日本兵捕虜が中心となり、リーダーの「最も重要な使命は全員が帰国することだ」という強い信念のもと、造り上げられ、のちの大型直下型地震にも耐えた。過酷な状況にあっても和を尊び気概を持って奮闘した日本兵捕虜から学ぶものは多い。
タイトル	伝説となった日本兵捕虜 ソ連四代劇場を建てた男たち (「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」の改題、加筆修正版)																					
著者	鳶 信彦/著																					
出版社	KADOKAWA																					
分類	916 シ	出版年	2019年																			
所蔵館	南																					

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">吉沢久子、27歳の空襲日記 (「あの頃のこと」改題、加筆修正版)</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">吉沢 久子/著</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">文藝春秋</td></tr><tr><td>分類</td><td>916 ヨ</td><td>出版年</td><td>2016年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td colspan="3">中央</td></tr></table>	タイトル	吉沢久子、27歳の空襲日記 (「あの頃のこと」改題、加筆修正版)			著者	吉沢 久子/著			出版社	文藝春秋			分類	916 ヨ	出版年	2016年	所蔵館	中央			太平洋戦争末期、東京に住む吉沢久子は鉄道教科書会社に勤める傍ら、後に夫となる古谷綱武の秘書としても働いていた。彼の応召に際し「日々の生活の記録をつけてほしい」との依頼を受ける。戦争が激化し明日の命をも知れない生活の中で、職場や家での出来事や想い、友人知人との交流を素直に綴った日々の記録。
タイトル	吉沢久子、27歳の空襲日記 (「あの頃のこと」改題、加筆修正版)																					
著者	吉沢 久子/著																					
出版社	文藝春秋																					
分類	916 ヨ	出版年	2016年																			
所蔵館	中央																					

	<table><tr><td>タイトル</td><td colspan="3">あなたと原爆 (講談社古典新訳文庫)</td></tr><tr><td>著者</td><td colspan="3">ジョージ・オーウェル/著 秋元孝文</td></tr><tr><td>出版社</td><td colspan="3">光文社</td></tr><tr><td>分類</td><td>934</td><td>出版年</td><td>2019年</td></tr><tr><td>所蔵館</td><td colspan="3">中央・東</td></tr></table>	タイトル	あなたと原爆 (講談社古典新訳文庫)			著者	ジョージ・オーウェル/著 秋元孝文			出版社	光文社			分類	934	出版年	2019年	所蔵館	中央・東			全体主義の恐怖を描いた傑作『一九八四年』の作家による評論集。表題作で著者は、大国が小国を脅すために原爆を保有することの危険性について論じている。発表から75年以上を経てもなお、核と平和を考えるにあたって重要性を失わない問題提起。
タイトル	あなたと原爆 (講談社古典新訳文庫)																					
著者	ジョージ・オーウェル/著 秋元孝文																					
出版社	光文社																					
分類	934	出版年	2019年																			
所蔵館	中央・東																					

発行 令和4年7月 編集・発行 宇都宮市立図書館

問合せ 宇都宮市立中央図書館 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 電話 028-636-0231